

事業実績報告書

様式 2
(2021年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-44	講座名	干潟の学校～藤前干潟でいろんなことしましょう～
記載日	2022/2/22	団体名・企業名	NPO法人藤前干潟を守る会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

秋冬は大潮でも昼間にほとんど干潟は出ないため、春夏のようにドロ干潟に入っただけの観察会はできませんが、秋冬には秋冬の楽しみや魅力があります。稲永ビクターセンター側では、引き続きヨシ原サイドでも英語のみのプログラムを開催したり、年一回のカワザンショウガイ調査を実施したり、冬鳥の代表であるカモを中心にバードウォッチングを実施しました。

藤前活動センター側では、海苔すき体験を通して、伊勢湾台風前までは豊かな漁場であったことや海苔養殖も盛んだったこと、そしてもう一度豊かな藤前干潟を取り戻したいというメッセージを伝えました。



※写真1の説明

10月16日(土)稲永側ヨシ原にて。カニを中心に観察、たくさんのカニに出会えました。

※写真2の説明

2月5日(土) 藤前活動センターにて。時折小雪の舞うなか、おいしい海苔をすきました。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

自然相手の活動は天気に左右されます。今年度も「三密回避」しようと気を遣うプログラム開催でした。第1回「Crab Paradise!」は、濃厚接触者になったという家族のキャンセルもあり参加人数が少ない分、少し安心して開催できました。第2回「カワザンショウガイ調査」も寒い一日でしたが、昨年と違い室内で食事ができたのが救いでした(まん延防止が出ていると会場が室内飲食禁止のため)。それでも三密を防ぐため、外でのソーティングする姿が多く見られました。第3回の「海苔を作ろう!」は時折小雪が舞ったものの、何とか無事終了。ただ今年の原料の海苔の出来はあまり良くないとのこと。第4回の「カモかもウォッチング」は風もなく暖かく、スタッフが興奮するほど珍しい、クロツラヘラサギ、ヘラサギ、ツクシガモ、ホオジロガモ、アメリカヒドリなども入っていて、素晴らしい観察日和となりました。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3～5点、計350字程度)

- ・ The course was fun for both adults and Kids. Kids and I learned about crabs and environment well. Thank you very much.
- ・ 講師から分かりやすく詳しい説明があった。スタッフも一生懸命準備してくれたのが伝わる講座だった。
- ・ 毎日頂く海苔がどのようにできているかだけでなく、それが昔は名古屋でも作られていて、どう変わっていき、作られなくなったかまで、親子で学ぶことができ、大変勉強になりました。
- ・ 説明が分かりやすかった。鳥への愛情が伝わった。